

伊万里の保育士さんがオススメする絵本 <3~5歳児向け>

	書名	作者	出版社	コメント
1	おおきななぐ	A.トルストイ／再話 内田 莉紗子／訳 佐藤 忠良／画	福音館書店	何度も繰り返される「うんとこしょどっこいしょ」の掛け声を自然と体を動かしながら一緒に大きな声で言ってくれます。犬や猫などおなじみの動物たちが増えるたびに繰り返される言い回しと掛け声を楽しんでいます。
2	わにさん どきっ はいしゃさん どきっ	五味 太郎／著	偕成社	虫歯が痛いわにさんと治療をする歯医者さん。同じ場面と同じ言葉を言います。それぞれの心理の違いを絵で表現したゆかいな絵本です。
3	きよだいな きよだいな	長谷川 摂子／作 降矢 なな／絵	福音館書店	お話にリズムがあり、身近にあるピアノやトイレットペーパーなどが巨大化して次々に出てくる楽しい、子どもたちがワクワクするようなお話です。
4	どうぞのいす	香山 美子／作 柿本 幸造／絵	ひさかた チャイルド	うさぎさんが作った「どうぞのいす」に次々と動物がやってきて、どうぞの気持ちを素直に受け取ったり、あとの人のために「どうぞ」と自分のものを置いたり…。やさしいおもいやりのリレーのおはなしです。かわいい動物の絵も子どもたちは大好きです。
5	わたしのワンピース	にしまき かやこ／絵と文	こぐま社	うさぎさんがワンピースを作りました。それを着てお花畑を散歩すると、ワンピースが花模様になる…。次々変わるワンピース模様。ファンタジーの世界に誘います。
6	わにわにのおふろ ～わにわにシリーズ～	小風 さち／文 山口 マオ／絵	福音館書店	「わにわには一」で始まる面白い話のうえ、わにが、リアルな絵で子どもたちの目を引き付ける本です。
7	バナナじけん	高島 那生／作	BL出版	くるまからバナナがひとつおちて、さるがきてバナナをはっけん！バナナを食べて皮をポイ!!次はうさぎがバナナの皮に滑り、ワニがきて皮を背中に乗せ…お話が次々につながっていく楽しいバナナのおはなしで、子どもたちは「次はどうなるかなあ？」とワクワクして見てくれました。
8	アントンせんせい	西村 敏雄／作	講談社	アントン先生は森の動物たちに頼りにされて、アントン先生が倒れてしまい、森の動物たちは協力合せて先生を看病し、シチューを作るなど動物たちのやさしさがにじみでています。
9	パパ、お月さまとって！	エリック=カール／作 もり ひさし／訳	偕成社	仕掛け絵本で、はしごを月にかけてところが開き絵になっていたりと、とても楽しい本です。夢があるお話だなと思います。
10	三びきのやぎの がらがらどん	マーシャ・ブラウン／絵 せた ていじ／訳	福音館書店	三びきのやぎのがらがらどんが勇ましく、恐ろしいトロールに立ち向かっていく姿が、子どもたちにはワクワク感を引き出して、引き込まれていくようです。楽しそうに橋を渡る姿も印象的で、やぎが大きくなるにつれて橋を渡る音も徐々に大きくなっていくので、子どもたちも一緒に声を出したりして盛り上がりやすい。うちどくでも人気がある絵本でした。
11	コップをわったねずみくん	なかえ よしを／作 上野 紀子／絵	ポプラ社	大人気のねずみくんシリーズです。コップをわったねずみくんがおかあさんに怒られないように別の誰かのせいしようと考えます。ちょっとずるがしいねずみくんでしたが、やっぱり最後は、正直なねずみくんだったのです。絵本を通して、うそはつかず、正直に話す大切さを教えてくれます。
12	ちょっとだけ	瀧村 有子／作 鈴木 永子／絵	福音館書店	なっちゃんのお家に赤ちゃんが来てなっちゃんはお姉ちゃんに。なんでもひとりだけでやってみるけど…。心あたたまるお話です。
13	はじめてのおつかい	筒井 頼子／さく 林 明子／え	福音館書店	だれもがいつか体験する“はじめてのおつかい”。ひとりのお母さんが子どもの体験をもとに作ったお話をさわやかな絵本に仕上げてあります。みいちゃんの緊張や不安、達成感などが伝わってくる絵本です。細かい描写にも遊びがみられて楽しめます。
14	そらいろのたね	なかがわ りえこ／文 おおむら ゆりこ／絵	福音館書店	『ぐりとぐら』の作者の作品です。美しい色遣いで夢のあるお話です。その中で、独り占めはよくないことを教えてくれます。ぐりとぐらが登場する場面を見つけるのも子どもたちは大好きです。
15	お月さまってどんなあじ？	マイケル・グレイニエツ／ 絵と文 いずみ ちほこ／訳	セーラー出版	お月さまってどんな味なんだろう…。お月さまを一口かじってみたいという動物たちが次々に自分の背中に他の動物を乗せていきます。そして、とうとう…。子どもたちといろんな想像をしながら楽しく読める絵本です。
16	だるまちゃんと てんぐちゃん	加古 里子／作・絵	福音館書店	だるまちゃんシリーズ。困ったり迷ったりした時、考えたり工夫したり試したりする姿がとっても楽しく解決していく様子がすてきな絵本です。その他のシリーズも大好き♡お部屋に置いておくとも自分たちでも見えていますよ。
17	こんとあき	林 明子／作	福音館書店	生まれてくるあき(主人公)のためにおばあちゃんが作ってくれたぬいぐるみのこん。あきが成長するにつれてだんだん古くなり、ほころびてきたこんをおばあちゃんにおおしてもらうために電車にふたりきりで乗ってでかける冒険物語です。あきが不安になると励ましてくれるこん。いろいろな出来事の中で深い友情が感じられ切なく胸が熱くなる絵本です。
18	にじいろのさかな	マーカス・フィスター／作 谷川 俊太郎／訳	講談社	魚の絵がとても美しく、ニジウオが本当の幸せとは何かに気づき自分が持っている(宝)を周囲の人たちに分け与えようとした。心が豊かになる。友だちになるには、教えたり、一緒に遊んだり、困っているときには助けるという事が分かる本です。
19	こすずめのぼうげん	ルース・エインズワース／ 作 石井 桃子／訳	福音館書店	こすずめが初めて空を飛んだ日。あちこちで休みながらだんだん遠くへ飛んでいきます。お話が進むにつれ、緊迫感が高まってきますが、最後にふっとやさしい安堵の結末があり、子どもたちの心をとらえてくれます。小学校就学前の子どもたちにぜひ読んでほしい本です。うちどくにもぴったりでした。
20	だいくとおにろく	松居 直／再話 赤羽 末吉／画	福音館書店	川に鬼が橋をかけてやる、その代わりに大工の目玉をくれという…。鬼の目的は何か不思議さに引き込まれます。画風も色鮮やかなページと白黒のページが交互に来るところも昔話の雰囲気表現していますよ。